

平成13年度 社会安全研究財団助成調査研究報告書

インターネットと非行についての 調査研究

平成14年3月
(2002年)

インターネットと非行研究会
代表 東洋大学社会学部教授 細井洋子

はじめに

携帯電話やパソコンの普及は、特に若い世代を中心にめざましいものがある。彼（女）らにとっては既に生活必需品ともいえる存在になっている。こうした現状に対して、メール交換やインターネット利用が青少年の非行や犯罪の促進要因として機能しているのではないかという懸念が、しばしば聞かれるようになった。

新しい情報メディアの出現は常に、大きな期待と同時にその好ましからざる影響に対する危惧を呼び起こしてきた。映画にしてもテレビにしても、それらが普及するに従って、情報や娯楽の素晴らしい提供者として歓迎される一方で、子供や青少年の行動や心理を毒するものとして糾弾の的となったのである。携帯電話やパソコンもその例外ではない。

ただ、そうした懸念や危惧は、実証的な証拠に裏付けられたものであるよりは、一部に生じた現象を全体に押し及ぼしたり、情報の内容（コンテンツ）から無媒介的に影響を類推するといったケースが少なくない。本研究は、実際に青少年が携帯電話やパソコンをどのように使用し、インターネット情報とどのように接しているかを、彼（女）らの日常生活、特に親や友人などとの社会関係の文脈のなかで、実証的に捉えようと試みたものである。代表性を持ったサンプルを対象とした厳密な調査というよりは、問題点を探索的に調べるといったパイロット調査であるので、調査結果から断定的な結論を導くことはできないが、今後の研究のための素材を発掘する役割が果たせれば幸いである。

なお、この調査は大学生を対象としたものと高校生を対象にしたものの2つに分かれている。集計分析もそれぞれ別個に実施した。従って報告も「大学生の部」と「高校生の部」に分けて執筆した。

インターネットと非行研究会

東洋大学 社会学部教授 細井洋子

東京大学 名誉教授 竹内郁郎

立正大学 文学部助教授 小宮信夫